



どちらが偉いとか
優れているとかじゃなく、
みんなが各々のルーツや文化を
尊重し合えるような
世界になってほしい

スーパーバイザー 吉本 卓

『今こそ 新訳 武士道』

新渡戸 稲造 著 / 倉田 眉貴子 訳
幻冬舎ルネッサンス

— どんな中高生時代を送られていましたか。また、教師になろうと思ったのはなぜですか？

世間一般でいう、やんちゃな子だったですね。一人っ子だったので、学校でしか同年代の人と関われない。だから、友だちを作るのが上手でした。とにかく明るくて、クラスの中でもムードメーカー的な役割を担っていたと思います。中学校の頃は、体育館の屋根に登ったりして、よく校長室に呼ばれていましたね。部活はせずに中高6年間は空手の道場に通っていました。身体を動かすのが大好きな少年でした。教師になろうと思った理由は…実は中学生の頃から、将来は教師になりたいと漠然と思っていたんです。子どもたちに空手を教えながら、生徒指導もしていけたらって夢を描いていました。ただ、この人生で一度は民間企業を経験してみたかったので、大学卒業後は大手メーカーの営業職で1年汗を流して、その後教員の道を歩むことになりました。今振り返ってみると、好奇心旺盛でやりたいことがあればすぐに行動に移す。この性格は今も変わっていないように思います。



この本の概要を軽く説明すると、新渡戸稲造という人が海外の人向けに英語で書かれた本で、1899年にアメリカのフィラデルフィアで初めて刊行されました。新渡戸稲造は2代目の5千円札に描かれた人物としても有名ですよ。日本では1908年に翻訳書が刊行。以来、多くの翻訳者と出版社によって出版され、現在では30カ国以上の国で読まれているベストセラー本です。この本は日本人としての普遍的な価値観や思考を端的に紹介している、バイブル的な本と言えるでしょう。明治維新以降、日本は開国をし、西洋文化と関わるのが増えました。日本は宗教教育もないのに、どうやって子どもたちに道徳を教えるのか？新渡戸は外国人との会話の中で何度も聞かれたそうです。ちなみに新渡戸の奥様はアメリカ人で、彼女とも曰

— 今回先生が取り上げられた『新訳 武士道』。なぜこの本を取り上げようと思われましたか？



本人の考え方や文化、道徳についてたくさん話し合っ
たそうです。結果、武家の生まれでもあった新渡戸は
答えを武士道に見出しました。

私は公立の中学校で17年ほど社会科の教師とサッ
カー部の顧問をしていたんですが、文科省の派遣とし
て、アメリカのワシントンDCで補習授業校の校長補
佐として働く機会を得ました。補習授業校とは、あま
り聞き慣れない言葉かもしれませんが、現地の学校や
インターナショナルスクールなどに通う日本人の子ど
もを対象に、放課後や週末などを利用して、一部の科
目を日本国内の学校と同様に日本語で授業を行う教育
施設です。

ワシントンDCに派遣された時、自分たちの思考や
文化を異文化の人たちに説明するのに、100年以上
も前に書かれたこの本は、本当に役にたちました。そ

れから、ことあるごとにこの本を開いて読んでいます。
3年間アメリカで仕事をした後は、いったん日本での
生活を挟んで、シンガポール日本人学校とインドの
チェンナイ補習授業校で、校長として学校運営に携わ
りました。結局、トータルで11年間ほど海外で勤務し
ていましたね。『武士道』は常に机の上に置いて、い
つでも読めるようにしていました。

今回、私は幻冬社から出ている倉田盾貴子さんが訳
した本を取り上げたのですが、倉田さんは翻訳家では
なく、私と同じ教師。しかも国語教師なんです。生徒
たちがいかに読みやすく分かりやすく伝えるかに重き
を置いています。

——この本を読まれて、あらためて気づかれた日本
人の気質ってありますか？

そもそも武士道ってなんでしょう。これは法律でも
なく、経典でもありません。明文化されていないもの
です。長らく続いた封建制度の中で培われてきた、文
章化されていない道徳体系です。

ひとつ例をあげると、この本では、武士道は西洋に
おける騎士道と表現しています。身分の高いものが伴
う社会的な責任と義務。私が思うに、武士は刀を持っ
ている強い身分だからこそ、傍若無人にその力を見せ
びらかすということはない。強くて人から恐れられ
る存在だからこそ、模範となる生き方をしなくてはな
らない。何が善で何が悪か。何が美しく何が醜いか。
彼らは一般大衆の人から尊敬される存在であらなけれ
ばならないのです。

知識について述べているところがあります。知識は
知恵を得るための手段でしかなく、知識の詰め込みは
機械と同じであると。言うならば知識はあくまで道具
であって、その道具を使うのは人間。だから、その知
識をより良く使うために、私たちはその人間力を高め
ていかなければならない。私はそう解釈しました。

我々が住む日本は、過去に大きな震災を何度も経験
しています。阪神淡路大震災や東日本大地震が起きた
時、あのような状況でも、人々は列に並び、避難所で
の生活でも規律を守り、理性を保っていました。これ
は誰からかに強制させられている訳でもなく、我々日
本人が、長い間に培ってきた道徳心からくるものだろ
うと思います。日本では1872年に学校制度が定め
られて、満6歳になれば小学校に通うことが義務付け
られました。武家社会における武士道が日本中の子ど



もだちに道徳として教えられて、現代の日本人の価値観に繋がっているのでしょうか。

——この本を通じて、大阪国際の生徒たちに伝えたいことは？

今はインターネットが普及し、この本が書かれた時代とは大きく違っています。だけど、100年以上前に書かれた本が、今でも多くの人に読まれて、支持されているのはなぜでしょう。おそらくこの本に書かれている日本人の本質とでもいうのか、なかなか言葉にしてこなかった、日本人が持つ普遍的な価値観を端的に文章化しているからだと思っんです。

本書は、本校の教育特色のひとつであります、小笠原流礼法についても紹介されています。また、本校で

は英語教育にも力をいれていますので、機会があれば、英語で読んでみることをお勧めします。

今の日本は先進国と言われ、世界でもある程度の存在感を有していると思います。しかし、この本が書かれた時代は、海外の人から見ると、日本は無名な国であったでしょう。どこにあるか分からないし、どんな人が住んでいるかも分からない。そんな国の人が、英語で自分たちの道徳観について客観的な目線で書き上げた、ベストセラー本。当時の世界のリーダーたちが日本と関係を築くにあたって、この本を読んで日本人の気質を学んだとも言われています。それだけでも、日本人として誇りに思えませんか？

教育の世界に「不易流行」という考え方があります。不易はどういう時代になっても変わらない、価値のあるもの。しかし、時代の流れの中で、環境の変化による新しい物の考え方やプロセスは常に創意工夫されて変化していきます。キリスト教を信仰している人は、聖書という2000年も前の書物を今も大切に、ひとつの価値観を次の世代へと受け継いできました。我々日本人にも同じようなことが言えます。こんなに社会が変わってきていても、先人たちが受け継いできた日本人が持つ心の根底の部分は変わっていないように思えます。

大阪国際の生徒たちは、外国人や海外の文化に触れる機会が多くあります。本校で学ぶ3年ないし6年の間に、世界の中の日本、日本の中の世界を意識して、ワールドワイドな視野を育ててほしいですね。

——最後に吉本SVにとって、「武士道」とはどういう本ですか？

今まで、日本人の古くからの物の考え方とかに関して、いろんな本があったと思いますが、精神論だけではなく、それらを分かりやすく体系的に整えたのが『武士道』です。

最初は、海外で現地の人に日本という国の内面的な要素を説明するために読んだのですが、歳を取って読み返すごとに深みを感じる良書であると思います。この本が書かれたのが1899年。ということは、この本の作者である新渡戸稲造は江戸時代の文化の中で幼少期を過ごして、大人になった人です。そんな昔の人の考え方に「なるほど」と共感して、「こっとう時、先人たちはどんな風に対応したのかな」と参考にしている自分がいます。

この世界にはいろんな文化と価値観がありますし、我々が生きているこの世の中は常に変化しています。だからこそ、どちらが偉いとか優れているとかじゃなく、みんなが対等、平等に各々のルーツや文化を尊重し合えるような世界になってほしい。大阪国際の皆には他の文化を尊重し、自身のバックボーンに誇りを持ち、世界に羽ばたく人材に育ててほしいと思います。

インタビュー

大阪国際中学校高等学校 図書館司書
株式会社紀伊國屋書店 角井貴乃

